

第2部

さいたま市らしさを生み出す都市づくり

本市には、見沼田圃や荒川、元荒川をはじめとする緑や水辺空間に加え、氷川の杜、サクラソウ自生地、城下町としての歴史、盆栽村や人形づくりなどの多様な地域資源があります。一方で本市の顔ともなる、さいたま新都心やサッカー交流の核となる埼玉スタジアム2002などの整備も進んでいます。これらを生かしてさいたま市らしさを創造していきます。

それぞれの地域の特性を踏まえ、新たなまつりを創造するなど、市民が知恵を出し合い、政令指定都市としての新しい都市イメージづくりを進めるとともに、国内外に情報発信しながら一体感を高めていきます。

(基本構想「5 実現に向けて」より)



私たちのまち、さいたま市は平成13年5月に3市合併により誕生し、平成15年4月には全国で13番目の政令指定都市に移行しました。さらに、平成17年4月には岩槻市と合併しました。今後は、さいたま市としての都市イメージの確立と共有を進めながら、郷土として真に誇れる都市の実現を目指します。

このため、固有の文化、豊かな自然、高度な都市機能など、地域の多彩な資源を積極的に活用していきます。また、市民がその役割と責任を自覚して都市づくりに主体的に取り組み、市民と行政の協働によって将来都市像の実現を目指します。その中で市民相互の交流の活性化を図り、さいたま市らしさを生み出しながら、市民の一体感を醸成していきます。

第2部では、3つの将来都市像ごとに、さいたま市らしさを生み出していく都市づくりのポイントを示します。

将来都市像 (基本構想より)

- ・ 多彩な都市活動が展開される東日本の交流拠点都市
- ・ 見沼の緑と荒川の水に象徴される環境共生都市
- ・ 若い力の育つゆとりある生活文化都市

「多彩な都市活動が展開される東日本の交流拠点都市」 に向けて

本市は、大宮駅周辺・さいたま新都心周辺地区と浦和駅周辺地区という2つの都心を含む中心市街地を抱え、高度で多様な都市機能が集積しており、100万人を超える人口を有する政令指定都市として、また、県庁所在地として、21世紀における首都圏の発展の一翼を担う都市づくりが求められます。同時に、このような都市づくりは、都市機能のさらなる集積・高度化や都市活動の拡大を通じて、様々な分野の交流の活性化につながり、本市の拠点性の向上に結びついていきます。

▶ 立地特性を生かした都市機能の強化・充実を図ります

本市は、北関東・東北地方及び上信越地方から首都圏への玄関口に位置し、新幹線5路線が集まる交通結節点という立地特性があります。宇都宮市や高崎市とは30分で結ばれるなど北関東は1時間圏にあり、東京駅、新宿駅とも30分程度で直結されているとともに、東北自動車道などの高速道路の利便性にも優れ、首都圏や北関東・東北地方、上信越地方との連携・交流に有利な条件を備えています。

こうした背景に加え、さいたま新都心には広域行政機能を有する関東財務局など国の21行政機関が立地するなど様々な高次都市機能の集積が進んでおり、バリアフリー*化やエネルギー循環、水循環などの先進的な基盤を備えた、さいたまスーパーアリーナや産学交流プラザなどの交流拠点づくりも進んでいます。

今後は交通結節点という特性を生かし、さいたま新都心の一層の充実、中心市街地における都市基盤整備を進め、都心・副都心の連携強化を図りながら自立都市の形成を目指します。

▶ 産業振興の仕組みづくりと情報発信力の強化による交流の活性化を進めます

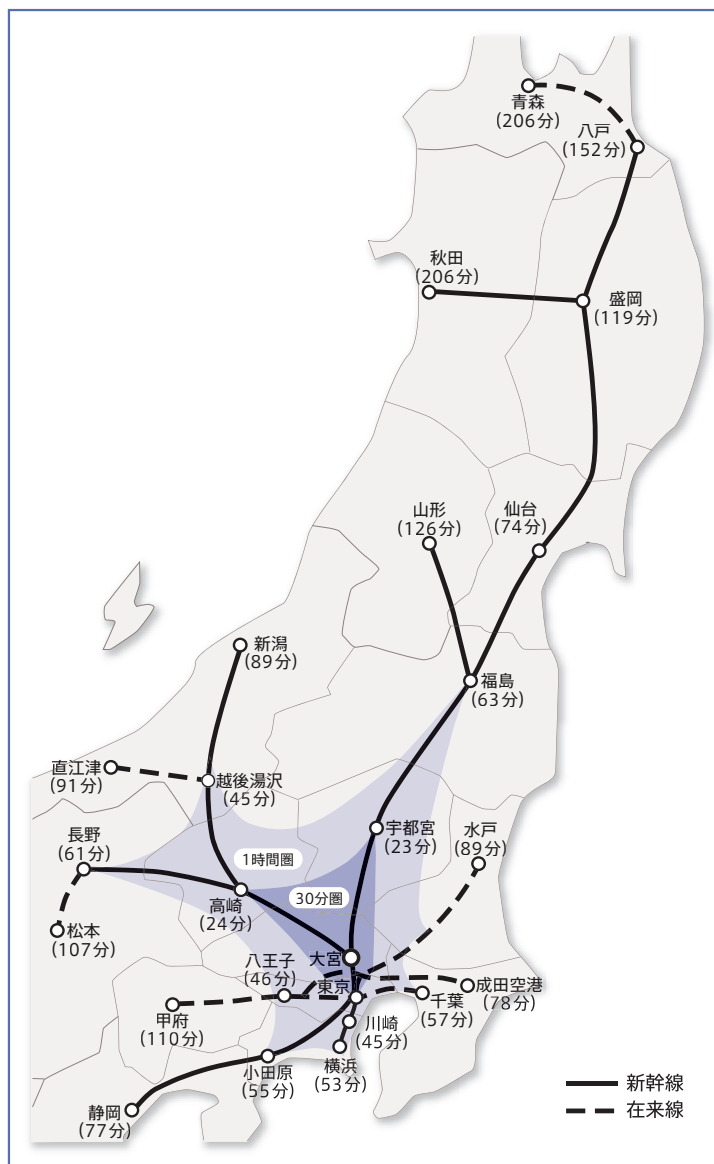
本市の中心市街地には広域的な集客力を持つ大規模な商業機能、県庁などの行政機能・業

POINTS

さいたま市らしさを生み出す都市づくりのポイント

- 1 交通結節点という立地特性やさいたま新都心などを活用した自立都市の形成
- 2 交流拠点を支える都市基盤の整備
- 3 多様な人材の育成・活用と産業活動や市民の様々な活動の拠点づくり
- 4 コンベンション*機能の充実など情報発信力の強化

■ 大宮駅から主要駅への所要時間



*等時間帯線は、図中に表記した駅間所要時間を参考に概ねの範囲として表示した。

行き先	乗車時間	路線
東京	22分	新幹線
宇都宮	23分	新幹線
高崎	24分	新幹線
新宿	27分	湘南新宿ライン
東京	29分	宇都宮・高崎線／京浜東北線（上野経由）
立川	36分	埼京線／武蔵野線／中央線
前橋	38分	新幹線／両毛線（高崎経由）
川崎	45分	宇都宮・高崎線／京浜東北線／東海道本線（東京経由）
越後湯沢	45分	新幹線
八王子	46分	埼京線／武蔵野線／中央線
横浜	53分	宇都宮・高崎線／京浜東北線／東海道本線（東京経由）
小田原	55分	新幹線（東京経由）
千葉	57分	宇都宮・高崎線／京浜東北線／総武線（秋葉原経由）
長野	61分	新幹線
福島	63分	新幹線
仙台	74分	新幹線
静岡	77分	新幹線（東京経由）
成田空港	78分	湘南新宿ライン／京浜東北線／特急スカイライナー（赤羽・日暮里経由）
水戸	89分	宇都宮・高崎線／特急ひたち（上野経由）
新潟	89分	新幹線
直江津	91分	新幹線／特急はくたか（越後湯沢経由）
松本	107分	新幹線／特急しなの（長野経由）
甲府	110分	湘南新宿ライン／特急あずさ（新宿経由）
盛岡	119分	新幹線
山形	126分	新幹線
八戸	152分	新幹線
秋田	206分	新幹線
青森	206分	新幹線／特急つがる（八戸経由）

務機能、高等教育機能など多様な都市機能が集積していますが、拠点性の向上と交流の活性化に向けて、さらなる産業の振興、市民活動の活性化と情報発信力の強化が求められます。

このため、集積した都市機能との連携を図りながら、産学官連携*や異業種交流、新しい産業などを支援する拠点づくり、市民の多様な活動の拠点づくりを進めます。あわせて、活動を担う人材の育成と活用、コンベンション*機能の充実など情報発信力の向上を進め、経済や文化など多彩な交流の活性化を図ります

「見沼の緑と荒川の水に象徴される環境共生都市」 に向けて

本市は、河川に沿って広がる低地と平坦な台地とから構成されており、低地は水田、台地は畑や雑木林が大部分を占めていました。

しかし、経済活動の拡大と都市化が進む中で、自然の恩恵を受けているという意識は希薄になり、武蔵野の原風景である雑木林、河川に沿った緑地や農地は減少を続けてきました。また、近年は、地球の温暖化やオゾン層*の破壊など地球規模での環境問題も顕在化しています。

こうした中で、地域に残された特徴ある自然資源を大切にしていくことは、人と環境との共生の実現に結びついていきます。

▶ 首都圏有数の自然資源である見沼田圃や荒川などの保全と活用を図ります

水と緑の空間が減少する中で、首都圏有数の自然資源として中央部には見沼田圃、西部には荒川、東部には自然豊かな元荒川などが残されており、今後、環境と共生する持続可能な都市づくりのシンボルとして、その保全と再生を進めていくことが求められます。

特に、見沼田圃は全体面積約1,260haの大部分が本市に属し、市域面積の約5.5%を占めています。現在、その40%が農地として利用され、その他に緑地や公園などとしての保全、整備も進んでいますが、一方では農地の荒れ地化が進む傾向が見られます。また、その周辺には大宮氷川神社を始めとする寺社、見沼代用水と芝川の舟運を支えた見沼通船堀などの文化財があり、竜神伝説や鷲神社の獅子舞も伝えられるなど、見沼田圃には長い歴史の中で独自の文化が育まれてきています。

このため、見沼田圃を市民共有の財産として位置付け、その保全・活用・創造を図ることによって、農業生産の場として維持しつつ、市民のかけがえのない環境資産として後世に伝えていくものとし、それを先導するセントラルパーク構想を推進します。また、本市を包み込むように配置された水と緑の空間を生かし、河川や街路樹、斜面林などの樹林地、公園などを結ぶ市全域にわたる水と緑のネットワークの形成を進めます。

▶ モノの豊かさを実現する中で顕在化してきた様々な環境問題に対応します

経済成長によってモノの豊かさが実現する中で、緑地や農地の減少に加えて大気汚染や水質汚濁などの地域における環境問題が生じ、さらには地球温暖化*などの地球規模での環境問題も顕在化してきています。この中で、私たちの郷土を未来に引き継いでいくためには、いわゆる「大量生産・大量消費・大量廃棄」の経済システムや効率性を優先した都市のあり方を見直す必要があります。

このため、ごみの発生抑制やリサイクルの推進など、資源循環型の都市づくりを進めます。また、市街地が拡大を続ける従来型の都市づくりから、既成市街地*の再構築を基本とするコンパクトな都市づくりへの転換を図り、環境負荷の少ない持続可能な*都市の実現を目指します。

POINTS

さいたま市らしさを生み出す都市づくりのポイント

- 1 見沼田圃の保全・活用・創造とそれを先導するセントラルパーク構想の推進
- 2 荒川と見沼田圃、元荒川を軸とした、市全域にわたる水と緑のネットワークの形成
- 3 ごみの発生抑制やリサイクルの推進など、資源循環型の持続可能な都市づくり
- 4 環境への負荷の少ないコンパクトな市街地の形成

■ 主な公園と緑地の分布



「若い力の育つゆとりある生活文化都市」 に向けて

本市は氷川神社の門前町、中山道や日光御成道の宿場町、岩槻藩の城下町として古くから繁栄し、明治期以降も埼玉県行政・商業・業務の中心地の役割を担いつつ、同時に、東京に近接した生活都市としても発展してきました。

100万人を超える市民が居住する生活都市という性格と、若い世代が多いという特徴を生かし、多種多様な市民の生活の中から新しい文化が生み出されることが期待されます。今後は地域の歴史・文化資源を積極的に活用するとともに、市民の自主的な活動や交流の活性化を図ることで、さいたま市らしさを創造していきます。

▶ 若い世代が多いという特性を踏まえた子育て支援と時代を担う人材育成を進めます

市民の年齢構成は65歳以上の高齢者が少なく、平均年齢が若いという特徴があります。特に、25歳～39歳の世代とその子どもの世代に当たる10歳未満の人口が多いため、子育てや学校教育はそのニーズが大きいだけでなく、人材育成の観点からも重要となっています。

一方、本市では明治・大正期に埼玉師範学校、旧制浦和中学校などが設立され、文教都市の礎が築かれました。現在、市内には大学9校があり、埼玉大学や芝浦工業大学で公開講座や一日体験入学が実施されるなど、地域社会に開かれた大学づくりの動きがあり、新しい世代の育成に向けて連携していくことが期待されます。

このため、子育て世代を積極的に支援して、地域社会とのふれあいの中で子ども達が成長していくよう子育てのしやすい都市づくりを進めます。また、文教都市の伝統を生かし、時代を担う人材育成に向けた特色ある学校教育を推進します。

▶ 生活都市という特性を生かした生活文化を創造します

東京に近接した生活都市として発展してきた本市では、盆栽やサッカーなどをはじめとする生活に根ざした多彩な文化が生み出されています。また、江戸時代から続く人形づくりは全国に知られています。

盆栽村は関東大震災後、文京区から植木・盆栽職人がまとまって移住したのが発端で、現在でも盆栽づくりが営まれています。付近一帯は落ち着いた緑の多い街並みが続いており、盆栽文化に触れようと海外からも多くの人々が訪れています。

また、埼玉サッカーの発祥の地である本市は現在、2つのJリーグチームのホームタウンであり、埼玉スタジアム2002ではワールドカップサッカー大会も開催されるなど、サッカーは多くの市民に親しまれています。

人形づくりは、江戸時代の初めに日光東照宮の造営や改修に携わった工匠が、日光御成道の

宿場町の岩槻に留まって人形づくりを手がけたのが端緒と伝えられており、全国有数の生産地として今日に至っています。

今後もこうした地域の歴史的、文化的資源を都市づくりに積極的に活用するとともに、市民の自主的な活動の活性化を通じて、さいたま市らしさの創造を進めます。

POINTS

さいたま市らしさを生み出す都市づくりのポイント

- 1 地域と連携した子育て支援や青少年の健全育成など、子育てのしやすい都市づくり
- 2 市内の大学との連携や中高一貫教育*の推進など、特色ある学校教育の推進
- 3 サッカーや盆栽文化、人形づくりをはじめとする地域の歴史的、文化的資源を活用した都市づくり
- 4 市民の自主的な活動の活性化などを通じた、さいたま市らしさの創造

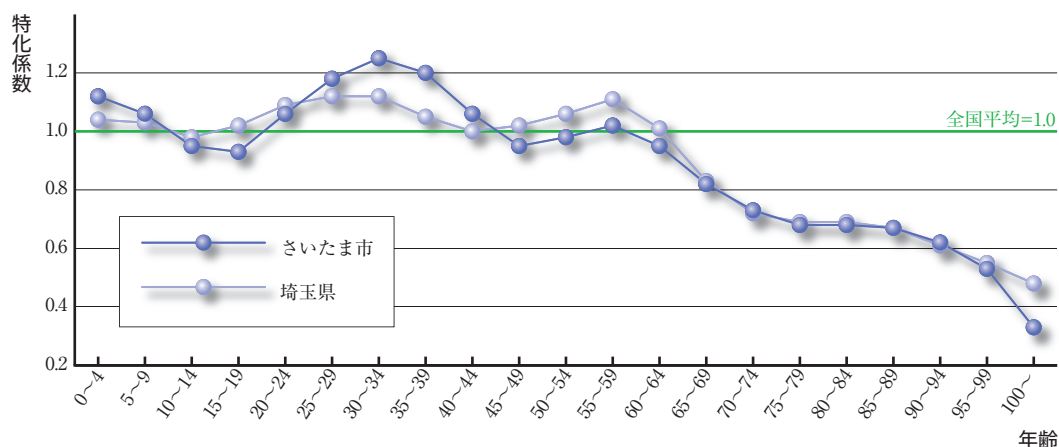
■ 年齢3区分別人口構成比と平均年齢(平成12年)

	平均年齢(歳)	人口構成比(%)		
		0-14歳	15-64歳	65歳以上
さいたま市	39.3	15.0	72.0	12.8
埼玉県	39.6	14.8	72.2	12.8
全 国	41.4	14.6	67.9	17.3

注1：国勢調査による。(注：合併前のさいたま市及び岩槻市のデータから作成)

注2：年齢不詳人口が存在するため、人口構成比の合計は100%にならない。

■ 平成12年の年齢階級別人口の特化係数



注1：さいたま市総合振興計画改定のための基礎調査報告書(平成17年9月・さいたま市)による。

注2：各年齢別の構成比について、特化係数が全国平均1を上回る場合、その年齢階級が全国平均に比べて多い。逆に、特化係数が1を下回る場合には構成比が全国平均よりも少ないことを示す。

■ 本市の主な地域資源



資料：さいたま市観光ガイドマップなどより作成

■ 主な観光・産業イベントと伝統行事

イベント・行事名 [月日：場所]	イベント・行事の内容など
桜まつり [4月初旬：岩槻城址公園]	約800本の桜が咲き誇る岩槻城址公園で行われる祭り。和太鼓演奏、野点（のだて）などの催しのほか、地元産の野菜、土産品の販売などで賑わう
さくら草まつり [4月中旬：市役所駐車場・さくら草公園]	「田島ヶ原のサクラソウ」の開花時期にあわせて行われる
流しびな [4月29日：岩槻城址公園]	子どもたちの健やかな成長を願って、毎年4月29日に行われるもので、わらでつくった丸い船に、紙の人形と願いごとを書いた短冊を乗せて水に流す行事
春の園芸まつり [5月初旬：市民の森、見沼グリーンセンター]	新鮮な農産物の即売、盆栽・山野草の展示など
大盆栽まつり [5月3～5日：盆栽村とその周辺]	5月の連休に開催される盆栽村の恒例行事。名品盆栽の展示、市民盆栽展、各種即売会など
げんじようさい 玄奘祭 [5月5日：慈恩寺]	慈恩寺での法要や邦楽奉納、玄奘三蔵法師の霊骨を納める十三重塔までの子ども豆孫悟空お練行列などが行われる
さいたまアグリフェスタ [5月初旬：大崎公園]	農産物の即売、商工物産の販売、ミニ動物園、民踊、太鼓演奏、ステージショーなど
ばらまつり [5月中旬：与野公園]	バラで有名な与野公園にて開催されるイベント。バラの苗木の即売会などが行われる
南部領辻の獅子舞 [5月中旬、10月中旬：鷲神社]	「三頭一人立ち」の獅子舞。地域を回り、氏子の庭先でも舞われる
大宮薪能 [5月下旬：武蔵一宮氷川神社]	昭和57年の東北・上越新幹線開業を記念して始まった薪能で、毎回一流の演者が幽玄に舞う
氷川神社の茅の輪くぐり [6月下旬：武蔵一宮氷川神社]	神橋の中央に設けられた茅の輪をくぐってお祓いし、身を清める
植木草花市 [6月下旬：武蔵一宮氷川神社]	氷川の社で行われる神事に合わせて参道では植木・草花・野菜などが販売される
朝顔市 [7月初旬：岩槻駅前WATSUクレセントモール]	区内で生産されたアサガオを販売する市で、平成9年からはじめられ、新たな夏の風物詩となっている
与野の夏祭り [7月中旬：与野本町通り周辺]	各町内による御輿の渡御、与野鴻沼太鼓の子供達による太鼓演奏など
駒形の祭りばやし [7月中旬：駒形神社]	祭礼日には神輿に従い、祭囃子を響かせながら、駒形地区内を山車に乗って練り歩く
あきは 秋葉さら獅子舞 [7月中旬：秋葉神社]	毘沙門堂を出発し、秋葉神社へ。また、秋葉神社から永昌寺へと向かう「道行」も見所のひとつ

イベント・行事名 [月日：場所]	イベント・行事の内容など
しゆく 宿の祭ばやし [7月中旬：大久保神社]	五人囃子にあわせて神楽や獅子舞が披露される
すな まんとう 砂の万灯 [7月下旬：八雲神社]	八雲神社の祭礼に悪疫退散、農作物の病虫害防除を祈願する7本の万灯が立ち並ぶ
人形のまち岩槻まつり [7月下旬：岩槻区役所・岩槻駅周辺ほか]	人形のまちにちなんでひととき大きな祭りで、お内裏様やお雛様に扮した人々が並ぶ世界一ジャンボ雛段が設けられるほか、人形仮装パレードなどが行われる
ひかわにょたいじんじゃ なごしぼら 氷川女体神社の名越祓え [7月31日：氷川女体神社]	江戸時代より続く夏越しの行事。マコモという植物で作った輪を「8の字」にくぐり、罪穢れを人形に移して水に流す
浦和まつり	
みこしパレード [7月下旬：浦和駅西口中山道ほか]	各町内の御輿が中山道などを練り歩く
音楽パレード・浦和おどり [7月下旬：浦和駅西口中山道ほか]	市内の小学校などによるマーチングパレードや、各「連」による「うらわおどり」の流し
大宮夏まつり	
スパークカーニバル [8月1日：大宮駅西口周辺]	サンバチームや市民参加団体によるパレード。太鼓演奏やステージイベントなど
中山道まつり [8月1～2日：大宮駅東口周辺]	各町内の御輿渡御・山車巡行。約1,000人に及ぶ市民民踊パレードや阿波踊り、お囃子の競演など
大宮日進七夕祭り [8月6～7日：日進七夕通り周辺]	商店街に百数十本の竹飾りが飾られ、子供御輿やお囃子、民踊流し、大綱引き大会などが開催される
さいたま市花火大会 [8月中旬：荒川総合運動公園]	3市合併以前から開催されていた正2尺玉9発を含む打上総数15,000発を誇る関東最大規模の大花火大会
深作ささら獅子舞 [8月下旬：深作氷川神社]	獅子3頭、天狗、法螺貝、萩の花笠、牡丹の花笠、助笛で構成される
みめまつうせんぼりこうもん 見沼通船堀閘門開閉実演 [8月下旬：見沼通船堀東縁閘門]	実際に水を流して閘を開閉し、水位の調節を行う。2分の1に復元した船を一の閘と二の閘の間に浮かべる。午前、午後各1回、見沼通船舟歌の踊りを披露
さしおうぎ もちつ 指扇の餅搗き踊り [8月下旬：指扇まつり、12月31日：五味貝戸自治会館]	実際に餅を搗く「しんしょうづき」や曲芸風に杵を扱う「曲づき」、もち米を蒸している間に舞う「万作踊り」を見ることができる
岩槻の古式土俵入り [9月中旬：笹久保篠岡八幡大神社(隔年) 10月下旬：釣上神明社]	古くから子どもたちの健やかな成長と村人の安泰、作物の豊作を願って奉納されてきたと伝えられている。色鮮やかな化粧まわしをめた子どもたちが土俵入りを行う

イベント・行事名 [月日：場所]	イベント・行事の内容など
さいたま市民まつり“咲いたまつり” [10月中旬：さいたまスーパーアリーナ及びその周辺]	市民相互の交流と融和を図り、「みんなで築こう“さいたまの伝統と文化”」をテーマとする市民参加型のイベント
与野停車場通り大正時代まつり [10月下旬：与野駅西口駅前通り]	大正時代開業の与野駅にちなみ、大正時代の服装による仮装パレードやフリーマーケットなどが開催される
さいたま商工見本市・コラボさいたま [11月初旬：さいたまスーパーアリーナ]	さいたま市の産業振興と発展を目的に、産業・物産の優れた地元企業が一堂に集う県下最大の見本市
人形供養祭 [11月初旬：岩槻公園内人形塚前]	古くなって使われなくなった人形たちを供養する祭りで、毎年11月3日、岩槻城趾公園内の人形塚前で行われる
さいたま市農業祭 [11月中旬：見沼グリーンセンター]	新鮮な農産物の即売会などを実施するほか、農産物の共進会も実施
とおかまち 十日市 [12月10日：武蔵一宮氷川神社境内・参道]	毎年12月10日に、大宮氷川神社の神事「大湯祭」にあわせて行われる伝統の酉の市
じゅうにんち 十二日まち [12月12日：調神社及び周辺]	毎年12月12日に、調神社やその周辺で行われる歳の市。十日市同様、熊手などを売る店が立ち並ぶ
いっさんじんじやとうじさい 一山神社冬至祭 [冬至：一山神社]	無病息災を願う行事で、参詣者に柚子を配る。祭事の最後に火渡りを行う
日進餅つき踊り [1月1日：日進神社]	江戸時代に中山道の伝馬役夫に出た若者たちが、大名や武士の宿で旅の慰安と接待を兼ねて餅つきしたものが芸能化したものと伝えられる
じんて 神田の祭りばやし [1月1日・3月上旬：月読社、2月上旬：稲荷神社初午祭、4月上旬：身形社春祈禱祭、7月中旬：八雲神社祇園祭、9月下旬：身形社秋季例祭]	明治の初めに大久保領家から伝わった、江戸・神田囃子系統の囃子。屋台囃子、仁羽、ショウデン、鎌倉、オカメ、ヒョットコの舞、獅子舞ほか
与野七福神めぐり・七福神行列 [1月3日：与野地区七福神]	与野地区にある七福神めぐりと、七福神達が1月3日に行う七福神行列
きやうりうた 木遣歌 [1月上旬：消防出初式、7月下旬：浦和まつり]	江戸木遣の伝統を引く木遣歌
田島の獅子舞 [3月中旬・7月中旬・10月中旬：氷川社 10月中旬：四谷稲荷社]	三頭立ての獅子舞で、ささらは用いず、笛にあわせて太鼓を打ちながら舞う

(イベント・行事の内容は、さいたま市HP文化財保護課「文化関連行事の案内」、社団法人さいたま観光コンベンションビューローHP「さいたま市のイベント情報」、旧岩槻市の市勢要覧を参考としています。また、平成17年度の最新事業を参考にしています。)

区民のまつり

区民意識の醸成及び地域住民の連帯を深めることを目的に、区民の協力のもと各区において趣向を凝らしたまつりを開催している